

作文コンクール 佳作

北方領土問題で考えたこと

奈良市立登美ヶ丘北中学校 牧野 純子

北方領土問題。それは日本が抱えるロシア連邦との問題です。私は中学二年生の社会の授業でこのことを知りました。

日本とロシア連邦は、北方領土は自国のものであると、さまざまな主張をしています。たとえば日本は、北方領土は北海道の納沙布岬からわずか 3.7 km のところにあることや、平和条約締結交渉は継続していて日露間で第二次世界大戦の結果は確定していないこと、北方領土は先祖が眠る島であることなどを主張しています。また、ロシア連邦は第二次世界大戦の結果、北方四島はロシア連邦のものであると主張しています。それから、北方領土でとれた魚介類のほとんどを日本へ輸出していることや、日本と同様に北方領土は自分たちの故郷であり、先祖が眠る島であることなどを主張しているでしょう。

そこで、私は次のようなことを考えました。まず、日本は国外に向けて、北方領土は「日本固有の領土」であることを主張し続けます。そして、ロシア連邦に北方領土の面積の半分を返還してもらいます。それから、北方領土への行き来が誰でも自由にできるようにします。全部の領土を返してもらおうとなると、今住んでいる島民を追い出すことになり、以前のロシア連邦の行動と同じになってしまい、またロシア連邦が返還を要求するでしょう。また、全てどちらかの国のものにしてしまうと、もう一方の国の元島民の人々がお墓参りなどで北方四島に行きにくくなったり、また別の島を占拠され土地をもらいにきたりするかもしれません。だから私は、面積を半分にし誰でも自由に行き来ができるようにすれば良いのではないかと考えました。また、この考えにはもう一つ利点があります。それは水産資源が両国でとれることです。北方四島周辺には世界三大漁場の一つである北西太平洋漁場があります。だから豊富な水産資源があり、両国とも漁業が盛んになって良いのではないかと思います。

私は社会の授業を通して、北方領土問題について友達や家族と意見を交換して考えることができて良かったと思います。一日でも早くこの問題が解決するためにも、もっと小学生のうちから北方領土問題について触れ、みんなが解決に向けて考えていく必要があると思いました。